



2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

下鍵山1民泊協力会(下鍵山/日吉地区) 下鍵山2民泊協力会(下鍵山/日吉地区)



会長 渡邊 清行

会長 宮本 芳春

「鬼北町は民泊を実施する」その話を聞き、下鍵山区の人たちは「ぜひ協力したい」という思いを抱きました。当初、下鍵山区全体で1つの民泊協力会を立ち上げる予定でしたが、より多くの人に感動を味わってもらいたいという思いから、「民泊の拠点を2つ作ってみてはどうか」という案が持ち上がり、話し合いの結果、下鍵山区に2つの民泊協力会が誕生しました。

渡邊清行会長率いる「下鍵山1民泊協力会」と、宮本芳春会長率いる「下鍵山2民泊協力会」。両会長は、「下鍵山1と下鍵山2に分かれてはいるけれど、私たちは「下鍵山区」として一致団結し、互いに協力・連携しながら活動している」と話します。そのため、両協力会は、「下鍵山1民泊協力会」と「下鍵山2民泊協力会」でのおもてなしに差異が生じないように、お互いの情報を共有し、密な話し合いを行うことを常に心がけています。「2つの協力会が集まると多くの意見が聞けて、勉強になる」という宮本会長の言葉に、渡邊会長は「活発な意見交換で自分自身の視野

も広がるし、下鍵山区のおもてなしもより良いものになるのではないかな」と、笑みを浮かべながら話していました。

6月に行われたリハーサル大会で、高知中央高等学校の応援を担うことになった「下鍵山1民泊協力会」は、「高知県」ということで「鳴子」を使った応援を考案。当日持参した鳴子を、応援に駆け付けていた保護者やチームメイトに配布し、一丸となって応援したそうです。渡邊会長は当時を振り返り、「とても良い雰囲気でも感動した」と話していました。

「不安もあるけど、楽しみの方が大きい」と、声をそろえて話す渡邊会長と宮本会長は、「選手たちに喜んでもらうのが一番。そして、私たちも「下鍵山に2つ拠点を作ってよかったね」と笑って終われるよう頑張りたい」と意気込んでいました。また、両会長は「決勝戦で下鍵山1民泊協力会と下鍵山2民泊協力会が応援するチームが対戦してくれるのが夢」と、嬉しそうに話していました。